

令和8年度

試験名:学群編入学試験

【医学群 医学類】

区 分	標準的な解答例及び出題意図
英語 問題 1	Ramakrishnan 著の加齢のメカニズムについての文章の一部を題材に、英文法・読解・要旨推論の能力を評価した。
問題 2	Greenhalgh 著の Evidence-based medicine についての文章の一部を題材に、英文法・読解・要旨推論の能力を評価した。
数学 問題 1	行列の性質および線形写像を題材に、線形代数に関する知識・思考力・計算力を問うた。
問題2	条件付き確率を題材に、基本的な知識・理解力および計算力について問うた。
問題3	複素数に関する問題を通じて、複素数に関する基本的な性質や計算などの理解力について問うた。 問1:複素数の n 乗根を正しく理解しているか 問2:複素数平面について正しく理解しているか。
化学 問題 1	第14属元素を題材に、結合や電子構造が元素の化学的性質に与える影響やその応用に対する理解を問うた。
問題2	一次反応を題材として、触媒、活性化エネルギー、反応エンタルピーに関する基礎知識と理解度を問うとともに、数式を用いてモル濃度や速度定数を理論的に求める能力を問うた。
問題 3	脂肪酸およびその化合物の性質について基礎的な知識を問うた。
生物 問題 1	分子生物学・遺伝子工学の基盤技術を題材とし、サンガーシーケンスから次世代シーケンス、さらにゲノム編集技術による遺伝子改変に至るまでの原理と応用を総合的に理解しているかを評価するとともに、最新技術の原理・利点・課題を批判的に考察する能力を測ることを目的とした。
問題2	神経伝達のメカニズムを説明する力と、それに関わる分子の役割についての総合的な理解を問う問題である。
問題 3	知識の羅列ではなく、概念同士のつながり・文脈理解・応用力を問う。分子生物学におけるタンパク質の一生を多面的に捉える力を養成・評価。大学レベルにふさわしい難度と、思考を促す多様な設問形式の組み合わせにより、単なる知識確認ではなく、「理解の深さ」そのものを問う構成となっている。